



## 2015 年 ホベツアラキリュウ発見 40 周年 －ホッピーがもらしたもの①－



ホベツアラキリュウ（ホッピー）の  
全身復元模型（穂別博物館）



荒木新太郎さん（発見当時）と最初に発見さ  
れたヒレの部分の化石

のちにホベツアラキリュウ（ホッピー）と名づけられる首長竜が発見されたのは 1975 年 6 月の日曜日なので、2015 年はホッピー発見 40 周年になります。これが発見したのは穂別町（当時）に在住の荒木新太郎さんで、穂別町長和（おさわ）の山奥でアンモナイトを探していた最中に発見し、一部を持ち帰りました。当初、この化石は動物の骨であることは分かっていましたが、その種類については不明でした。

この骨化石が重要なものであると考えたのが、苫小牧青少年センターの佐藤昌人指導員で、この化石の写真を古脊椎動物の専門家である長谷川善和主任研究員（国立科学博物館）に送りました。長谷川先生の鑑定で、この化石は首長竜のヒレの一部ではないかとされ、そのことが 1977 年 2 月に新聞で取り上げられました。日本産首長竜の全身、または、まとまった骨格としては福島県で 1968 年に発見されたフタバスズキリュウに次ぐ発見になる可能性がありました。

新聞で報道される少し前から、穂別町職員も、荒木さんが希少なものを採集したこと、さらに残りの部分が沢の奥に残されているらしいことを知りました。穂別町は地元はこの化石を残したいと考え、荒木さんは保存・展示施設をつくり、穂別に残すことを条件に、発見場所を教えました。

発見された場所は沢の源流に近い場所で、周囲は白亜紀後期の泥岩の地層からなります。この時に発見された化石は石灰分が濃集し硬くなっている泥質の石灰質ノジュールに包まれていた部分のみで、周囲の柔らかい母岩（泥岩、石灰分は濃集していない）は風化して失われていました。こうしたノジュールが沢に堆積した泥の中から発見されました。



残りの化石の発掘は1977年7月5日～8日までの4日間、各28名前後が参加しました。発掘は北海道大学、北海道開拓記念館の先生各1名と、穂別町の町民が参加されました。蚊やブヨのいる暑い中での大変な発掘だったそうです。発掘の結果、胴体の大部分と、左前後のヒレなどが採集されました。

こうして発掘された化石について3年半かけて余分な岩石を除去するクリーニングが行われました。この首長竜を保存し、展示するための穂別町立博物館が1982年7月に開館し、全身復元模型が12月に展示されました。

ホッピーは全身骨格が復元された国内産首長竜としてもフタバスズキリュウについて国内2例目になりました。

よみがえる  
クビナガリュウ

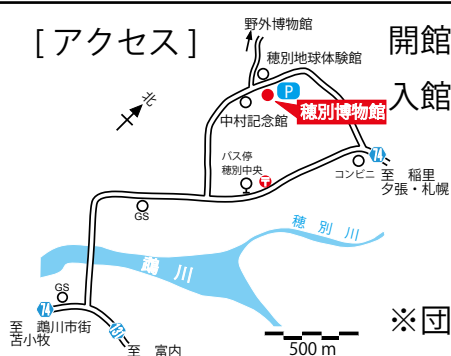


よみがえるクビナガリュウ 村上隆著  
1983 年発行 A5 判 59 ページ 500 円 穂別  
博物館窓日（博物館協力会）で販売

ホベツアラキリュウの発見から発掘、穂別町立博物館の開館までのことが、記されています。

学芸員 西村智弘

学芸員 西村智弘



開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小～高校生：100 円

大人 300 円

団体 / 小～高校生：50 円

大人 200 円

※団体は 10 人以上 ※小学生未満は無料

休館日

1月

1(木・祝) ~ 5(月)

13(火) 14(水)

19(月) 26(月)

2 月

2(月) 9(月) 12(木)

16(月) 23(月)

## 町民無料観覧日

1月12日（月・祝）  
（成人の日）